

## 【成績評価】

本校の成績評価の方法は、定期試験（筆記試験）のほかに、各授業の進度に応じシラバスに明示された到達目標の成果を測るため、小テストやレポート、実技評価など、多様な方法を用い総合的に行う。

但し、臨地実習及び看護における研究（旧カリキュラム名：看護研究）については、次の方法により評価を行う。

臨地実習：対象との相互関係や環境が学修の質に大きく影響するため、学修成果をルーブリック評価表とポートフォリオを用いて評価する。

看護における研究（旧カリキュラム名：看護研究）

：論文内容と研究プロセスを重視するため、看護研究評価表を用いて評価する。

単位認定及び成績評価の基準は、学生生活のしおり（p. 70-71 本校履修規程）に示すとおり、A（80点以上）B（80点未満～70点）C（70点未満～60点）D（60点未満）とし、C評価以上を合格（単位認定）とする。

なお、臨地実習及び看護における研究（旧カリキュラム名：看護研究）については合否の2段階評価とする。

これら各学生の授業科目については、シラバスに記載された成績評価の方法に基づき評価し、運営委員会において慎重に審議し単位認定及び履修認定を行う。

## 【客観的な指標の算出方法】

本校では、当該学年で履修すべき全科目の成績結果を合計して平均点を算出し、この平均点を成績の客観的な指標として取り扱っている。

また、臨地実習と看護における研究（旧カリキュラム名：看護研究）についても、学生に配布する各実習評価表・看護における研究（旧カリキュラム名：看護研究）評価表に基づき100点満点で学修成果を算出している。

これらの指標をもとに、学生自身が所属する学年の中でどの位置にあるかを把握し、自らの授業への取り組みの主観的評価を行い、その後の学修に繋げるようにする。

また、教員は学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善に繋げていく。